

# 第38回千歳市環境審議会議事録

平成29年 9 月 20 日

## 第38回千歳市環境審議会

日 時：平成29年 9 月 20 日（水） 16時00分～16時50分

場 所：議会棟大会議室

出席委員：石川勇人委員、宇山昌一郎委員、大久保亘委員、大星真弓委員、  
鎌倉英昭委員、熊本進誠委員、小林純子委員、佐藤正義委員、  
登坂英樹委員、中西昭治委員、西尾暢人委員、長谷川誠委員、  
牧野利信委員、遊佐秀憲委員（計14名）

欠席委員：森勝子委員（1名）

事務局：伊賀市民環境部長、政岡市民環境部次長、上野環境課長、中本環境計画  
係長、倉島主任、杉林主任、浦川環境保全係長、板橋自然環境係長

### 次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付式
- 3 会長・副会長の選任
- 4 議事録署名委員の指名
- 5 報告事項  
報告第1号 千歳市環境基本計画（第2次計画）の進捗状況について  
報告第2号 千歳市役所エコアクションプランの推進状況について
- 6 その他
- 7 閉会

## 第 38 回千歳市環境審議会議事録(会議概要及び議事要旨)

### 1 開会

環境審議会に先立ち、千歳市環境審議会委員の委嘱状交付式を行った。

### 2 委嘱状交付式

千歳市環境審議会委員の改選に伴い、出席委員14名に市長から委嘱状を交付した。

### 3 会長・副会長の選任

欠席委員 1 名（千歳市女性会議 森勝子様）を事務局から紹介し、半数以上の出席があるため本会議が成立する旨を報告した。

会長・副会長の選出方法について意見を募ったところ、西尾暢人委員から事務局案の提示を求められ、他に意見等がなかったことから次のとおり案を示し委員の同意を得た。

会長：長谷川誠委員      副会長：登坂英樹委員

### 4 議事録署名委員の指名

議事進行に従い、会長が議事録署名委員に石川勇人委員と大久保亘委員の 2 名を指名した。

### 5 報告事項

(1) 「報告第 1 号」について会長から事務局へ説明が求められ、資料に基づき次のとおり説明した。

#### 【報告第 1 号】

#### 千歳市環境基本計画（第 2 次計画）の進捗状況について

##### 1 千歳市環境基本計画（第 2 次計画）に係る進行管理について

千歳市環境基本計画（第 2 次計画）における市主体の施策の実施状況を把握するため、数値目標を設定した項目について、千歳市役所環境マネジメントシステム等により毎年進捗状況の確認を行う。この結果は、千歳市環境審議会に報告して意見を求めるとともに、千歳市環境白書などを通じて市民・事業者公表する。また、マネジメント手法である P D C A サイクルによって適切な計画の進行管理を行う。図は計画の進行管理を表している。

##### 2 千歳市環境基本計画（第 2 次計画）に係る数値目標及び計画期間について

千歳市環境基本計画（第 2 次計画）では、環境像を「限りなく伝えよう いい空 いい水 いい緑 そして共生をめざして」と定め、環境像の実現に向けた取組を展開するため、別紙のとおり 5 つの環境目標を設定している。計画の行動期間は平成 23 年度から平成 32 年度までの 10 年間である。数値目標の設定は、平成 21 年度を基準年として、項目により年度ごとの数値目標や計画の行動期間の終期である平成 32 年度までに達成する数値目標を設定している。

本計画では全体で36の数値目標を設定しており、そのうち9項目は年度ごとの数値目標を設定している。項番20については、平成24年度にISO14001から千歳市独自の環境マネジメントシステムに移行したため、目標を「環境マネジメントシステムの目標達成率」から「市長部局のエネルギー使用に係る原単位」に変更している。

### 3 平成28年度末現在における目標項目の数値について

表1は平成28年度末現在の目標項目別数値一覧である。「平成28年度末の目標達成状況」欄は、数値目標を設定している項目に対し、目標を達成した場合は「○」、達成できなかった場合は「×」としている。また、「◎」はすでに平成32年度までの目標を達成した項目、「―」は平成28年度末の数値目標を設定していない項目である。

### 4 平成28年度末現在の数値目標を設定している項目の達成状況について

数値目標を設定した項目は9項目あり、そのうち目標を上回ったものは4項目、下回ったものは5項目となった。

#### (1) 目標を上回った4項目について

ア 「自然環境保全地区等における自然環境監視員の監視回数について、平成21年度の69回を毎年72回として監視を継続する」(項番13)

→89回となった。

イ 「開発行為に当たっての事前協議件数について、平成21年度の0件を毎年5件程度までとする」(項番16)

→2件となった。

ウ 「環境学習などの受講者数について、平成21年度の223人を毎年240人に受講者数を増やし継続する」(項番29)

→256人となった。

エ 「郷土の自然、歴史、文化を学ぶ機会の数について、平成21年度の10回を10年間継続して機会を設ける」(項番35)

→27回となった。

#### (2) 目標を下回った5項目について

ア 「花いっぱいコンクールに参加した団体、個人、企業等の件数について、平成21年度の194件を毎年250件にする」(項番10)

→217件となった。

イ 「野生傷病鳥獣保護等の件数について、平成21年度の167件を、毎年160件を目安として保護等を継続する」(項番15)

→168件となった。

ウ 「自然環境行事の開催について、平成21年度の年間2回を毎年10回開催する」(項番17)

→悪天候のため中止となった行事があり、7回の開催となった。

エ 「環境イベント等参加者数について、平成21年度の2,200人を毎年2,500人にする」(項番22・30)

→2,017人となった。参加者数の把握は、これまで入り口でカウンターにて計測していたが、この方法では再入場した人数も含む可能性があったため、計測方法を一人一枚配布するスタンプラリー用紙配布数に変更した。このことから、参加者の実数が減少したと考えられる。

## 5 参考資料

表3は「平成28年度末現在の目標項目別数値一覧」について、それぞれの項目をグラフで示している。

### 【質疑応答】

委員

9ページ以降の表3「平成28年度末現在の目標項目別数値一覧（グラフ）」において、項番31の「環境リーダー育成研修参加者」は毎年参加者数が少ないようであるが、32年度目標である75人の達成を見込めるのか。

事務局

毎年職員が環境保全等に係る研修に参加しているものであるが、業務の都合で出席がかなわない場合もあり、32年度目標は達成出来ない可能性もある。今後も引き続き参加者数を増やしていきたい。

委員

研修は毎年開催されているのか。

事務局

はい。

委員

環境省においても、自治体を対象に含めた環境教育に係る研修を開催しているため、紹介することができる。

事務局

参考とさせていただきたい。

会長

他に質問等がないことから、報告第1号は報告済みとする。

- (2) 「報告第2号」について会長から事務局へ説明が求められ、資料に基づき次のとおり説明した。

## 【報告第2号】

### 千歳市役所エコアクションプランの推進状況について

#### 1 市の事務・事業における温室効果ガス等及びエネルギー消費の削減

市は、地球温暖化対策や省エネルギーの取組として、市の事務・事業に伴い排出される温室効果ガス等及びエネルギー消費の削減を図る「千歳市役所エコアクションプラン」を平成24年1月に策定した。平成28年度には、新たに5年度間の削減目標を下の表のとおり設定し、この目標の達成に向けて、「千歳市役所環境マネジメントシステム」に基づき取組を推進している。

表1は温室効果ガス排出量の削減目標率と数値を示している。

表2はエネルギー消費の削減目標の数値を示している。

表3は年度別のエネルギー消費の削減目標率を示している。

#### 2 平成28年度の温室効果ガス排出量の削減状況

市役所全体の温室効果ガス排出量の目標は、「平成32年度までに平成22年度比5.1%削減」としている。平成27年度までは、各年度の温室効果ガス排出係数を使用して実績を算出していたが、平成28年度の新たなエコアクションプランでは、基準年度である平成22年度の排出係数を使用することとした。これは、東日本大震災の影響で発電の中心が火力発電所となったため、電気利用に係る温室効果ガス排出係数が高くなったことによるものである。エネルギー使用実績を削減しても温室効果ガス排出量の削減に反映されない結果となっていたことから、取組の効果が測定できるようにした。

平成28年度の市の事務・事業全体の排出量は表4のとおり39,061t-CO<sub>2</sub>で、平成22年度比で1.9%の削減となった。

(1) 施設のエネルギー消費に伴う排出量の実績は、平成22年度比0.4%の削減となった。

(2) 廃棄物の焼却に伴う排出量の実績は、平成22年度比0.6%の削減となった。

(3) その他の活動に伴う排出量の実績は、「平成22年度実績値以内」を目標値としており、道路関連施設のエネルギー消費は4.0%、下水の処理は8.0%、自動車の使用は2.4%それぞれ増加する結果となった。

表5は、表4と同じ表を平成28年度の排出係数で算出したものである。平成22年度係数では全体で1.9%の削減となったが、平成28年度の係数を使用すると13.6%の増加となった。

#### 3 5年度間の温室効果ガス排出及び削減状況（平成22年度排出係数）

グラフ1は、平成22年度以降の温室効果ガス排出量の推移を示している。

グラフ 2 は、平成 22 年度比の温室効果ガス排出量削減率の状況を示している。

#### 4 平成 28 年度のエネルギー消費の削減実績

表 6 は「平成 28 年度のエネルギー消費の削減状況」である。

##### (1) 施設のエネルギー消費

省エネ法に合わせてエネルギー消費原単位を平成 22 年度比 5.8%削減としている。平成 28 年度は、水道局は 9.9%削減し目標を達成したが、市長部局は 4.7%の削減、教育委員会は 4.7%の増加となり目標未達成となった。

##### (2) 道路関連施設のエネルギー消費

平成 22 年度実績値以内を目標値としていたが、平成 28 年度は道路関連施設全体で 1.6%の増となり目標未達成となった。

##### (3) 自動車の使用に伴うエネルギー消費

平成 22 年度実績値以内を目標値としていたが、平成 28 年度は 12.8%の増となり目標未達成となった。

表 7 及び表 8 は、個々の施設の削減状況について示している。

#### 5 5 年度間のエネルギー消費削減状況

グラフ 3 は、平成 22 年度を基準とした各年度のエネルギー消費原単位削減率の状況を示している。平成 28 年度は小中学校で暖房使用に係るエネルギーの使用が増加し、教育委員会は削減率がマイナス 4.7%となった。

グラフ 4 は、平成 22 年度以降のエネルギー消費量の状況を示している。

#### 6 取組の状況

##### (1) 職員等の行動による取組

平成 24 年 4 月から、千歳市役所環境マネジメントシステム「エコアクション」を本格運用し、指定管理施設等を含む市が管理するすべての施設における温室効果ガス排出削減と省エネルギーの取組を開始した。

取組は「職員等環境配慮行動ガイドライン」に基づき、消灯・電源 OFF の徹底、冷暖房の温度管理、設備の稼働時間短縮・負荷軽減、設備の定期的な清掃・点検、省エネ設備への更新、エコドライブの推進、利用者への呼びかけ等を行っている。

##### (2) 設備の運用管理による取組

省エネ法では、省エネのための設備の運用マニュアルとなる「管理標準」を定め、設備ごとにきめ細かな運転管理を行うことを求めている。

管理標準の作成を温室効果ガス排出量が 1 年間で 40 t ある市の有人施設で進めているが、完成に至らない施設もあるため、引き続き作成を推進する。

##### (3) 建築物の設備更新による取組

平成 28 年度は、省エネ効果が期待される設備の更新を表 9 のとおり実施した。

#### (4) 優良な取組

内部環境監査結果より、これまでに行われた各施設の優良な取組の主なものは10ページから11ページのとおりである。

### 7 温室効果ガス排出量及びエネルギー消費に係る削減目標達成状況の総括

新たなエコアクションプランの初年度である平成28年度は、市全体の温室効果ガス排出量を「平成32年度までに平成22年度比5.1%削減」とする目標に対し、1.9%の削減となり良好な結果となった。

エネルギー消費については、「原単位を平成22年度比5.8%削減」とする目標に対し、水道局は9.9%の削減し目標達成、市長部局は4.7%削減、教育委員会は4.7%の増で目標未達成となった。

未達成の理由として、平成23年度以降に新設された施設が6施設、廃止された施設が3施設のほか、改修や運用変更となった施設も多く、基準年のエネルギー使用状況から変化があったこと、また、28年度は冬季に厳しい寒さが続き、暖房使用によるエネルギー消費が増加した施設が多かったことが挙げられる。千歳市における過去3年の冬季(12月から3月)月ごとの平均気温をみると、平成28年度はグラフ5のとおり、すべての月ではほかの年の気温を下回っていた。

各施設では、施設管理責任者のもと、施設管理推進員、施設運転責任者、現場の設備運転担当者が情報交換し、それぞれの意見やアイデアを出し合いエネルギー消費の削減及び効率化に努め、厳しい気象状況下でも効果を上げている施設もあった。また、施設入居課の各職員による省エネ及び節電の取組実践とともに、施設利用者の協力も目標達成の要素となっている。

#### 【質疑応答】

##### 委員

議案12ページの「温室効果ガス排出量及びエネルギー消費に係る削減目標達成状況の総括」で市全体の温室効果ガス排出量は「1.9%の削減」とあるが、これは4ページのグラフ2に示しているものか。

##### 事務局

はい。

##### 委員

このグラフ2を見ると、平成26年度から27年度までは順調に削減が進んでいるようである。何か対策を講じたことによるものか。

##### 事務局

各施設ではそれぞれ目標を立てて取り組んでもらっている。また、省エネ設備への更新も行っており、それらが削減効果につながっていると考えられるが、その年の気温の影響も受けるため複合的な要素がある。

##### 委員

平成28年度は冬期に厳しい寒さが続いたことで削減率が下がったようだが、もし平成27年度と同程度の寒さであったならば、削減率は上がっていた可能性があるということか。



**事務局**

はい。

**会 長**

他に質問等がないことから、報告第2号は報告済みとする。

**6 その他**

特になし。

**7 閉会**